

太田大臣故郷を走る

この地には夢がある、未来がある

①

愛大地域政策学センター研究員
 地方政治クリエイト

伊藤 秀昭

太田昭宏国土交通大臣が19日、新東名浜松サービスイリア(SA)で防災SAの機能を視察。大臣就任以来2度目の東三河へのお国入りをした。

来春開通予定の新東名設楽原パーキングエリア(PA)から第二東名の進捗状態を視察し、三河港では耐震強化岸壁、輸入車整備工場、そして太陽光植物工場、最後は豊橋駅前のホテルで大村秀章知事や東三河8市町村長、各商工会会長と懇談し、数々の要望を受けた。

その合間に、太田大臣が語

った東三河に対する思いや考えを、連載で紹介する。

■ポテンシャルの高い地域 来年新東名が開通し、2020年に東京オリンピック、27年にはリニアが走る。

ここは農業においても、産業の面からも、観光の面からも、ポテンシャルの高い地域になってきている。ここに200万人の人が穏やかに暮らしている。そして、ここに三遠南信のひとつの塊ができていく。そこを結ぶ道路ができていく。

この地のリスクとしては東

南海地震の問題があり、防災対策をしなければならぬ地域ではあるが、この地域の発展に力を入れていかなければと思っている。

■最大規模の投資

17年度の開通を目指して辰野―飯田東間、佐久間―東栄間は18年度の開通を目指し、佐久間インターなどの早期整備を図るようとして、最大規模の187億円を投入する予定である。

それから、さらに南の東栄―鳳来峡間の開通に向けても、用地買収費が20%を占め、機運が高まってくると追い風になって、少しでも早くこのことになる。

伊勢湾口道路の話は昔からあり、船で渡って鳥羽へ行っただことがあるが、最近はおまじり聞かない。これからの課題ではないか。

浜松三ヶ日・豊橋道路は三

遠南信の道路ネットワークのひとつだと認識しているし、「愛知県・静岡県との県境道路に関する連絡会」の動きもあり、積極的に努力して、国直轄で調査を実施し、具体化の段階に入る。

■設楽ダム

設楽ダムについては私の故郷の事で、同窓生の中にも反対している人もあり、そういう意見も聞いてきた。

政治的には多くの方が推進していただきたいというのが

大勢であると認識している。豊川は豊かな川だと思っていたが、全国的にも濁水で心配した地域が何カ所かあるが、豊川もその一つだ。

その意味からも治水の点、利水の点からいって、地元の意向が大事だし、知事からも「異見はない」ということもあり、4月22日に開催予定の有識者会議の予断のない意見を聞いて、国交省としての判断をさせていただきたい。



懇談会であいさつする太田大臣(19日、豊橋市内で)